

● 歴史

町内から発見された遺物などから、気高町の歴史は少なくとも先土器時代から縄文時代まで遡ることができます。また、弥生時代中期の県内最大規模の独立棟持柱建物跡（どくりつむなもちばしらたてもものあと）や古墳時代から奈良時代にかけての多くの古墳や古代因幡国気多郡郡衙（ぐんが）跡とみられる遺跡が確認されています。中世末には鹿野城主亀井茲矩の治世下にあり、日光池の干拓が行われ、また、今日まで伝わる日光の生姜や睦逢大堤池の「うぐい突き」も、亀井公の朱印船貿易によって東南アジアから伝えられたとされています。

明治22年（1890年）市制・町村制の実施により、宝木村・光元村・酒津村・瑞穂村・逢坂村・八束水村・正條村の7か村が成立し、その後数回の合併を経て、昭和30年（1955年）7月1日、宝木村・酒津村・瑞穂村・逢坂村・浜村町の5か町村が合併して「気高町」が誕生しました。新しい町名は、町が気高郡に属していたことと、「民情誠純たること」とを考えて命名されました。

● 特性

①南に“因幡富士”と呼ばれる鷲峰山を仰ぎ、北には日本海を望み、5kmにもわたる美しい鳴り砂の浜が続く海岸線があり、日本ジオパーク*委員会よりエリアの拡大が認定された山陰海岸ジオパーク*の「浜村海岸ジオサイト」と「鹿野ジオサイト」の一部として位置づけられています。

②国道9号線及び JR 山陰本線が東西を横断し、鳥取空港や本市中心市街地へのアクセスも便利です。また、山陰道鳥取西道路が全線開通や「道の駅西いなば気楽里」の完成により一層交通面で利便性が向上しました。

③気高町には、全国的に有名な民謡「貝がら節」と「浜村温泉」があり、夏には「貝がら節祭り」を開催するなど唄と踊りを伝承する取り組みを行っています。

また、国や県指定の「因幡の菖蒲綱引き」、「酒津のトンドウ」、「百手の神事」、「うぐい突き」などの民俗行事が息づいています。

さらには、平成の名水百選に選定された「布勢の清水」、因伯の名水に選定された「お地藏さんの水」や**全国の和牛の始祖といわれる「気高号」**があります。

④農業は、米作が中心ですが、畑地では野菜類や花卉、施設園芸などが行われ、有機米、生姜の特産品化に取り組んでいます。

漁業では、酒津、船磯の二つの漁港があり、獲る漁業とともに、育てる漁業（わかめ、あわび、岩がき、サザエ、キジハタなど）にも取り組んでいます。

● 資源

区分	主なもの
特産品	酒津の塩さば、いがい飯、貝がら型のお菓子、瑞穂生姜、日光生姜、白いか、有機米こしひかり
観光	魚見台、龍見台、布勢の清水、睦逢のお地藏さんの水、浜村砂丘公園（ヤサホーパーク）、浜村の文芸の小径、両国梶之助の墓地、阿弥陀森の大タブの木、亀井茲矩公墓所、酒津のトンドウ（国指定）、因幡の菖蒲綱引き（国指定）、百手の神事（県指定）
イベント	貝がら節祭り、気多の市、睦逢「大堤のうぐい突き」（ 県指定 ）、しょうがほかほかフェスタ、わかめの収穫祭、ときめき祭（文化祭）、浜村温泉映画祭

